

推進校は、飼育動物が死亡した際に、児童に生命の尊さを伝える取組を実施しています。また、学校担当獣医師から、遺体の検案、埋葬場所の準備、埋葬の処理などについて支援を受けています。

★★

実践事例

八王子市立宇津木台小学校

【実践の概要】

- 12月に飼育しているウサギが亡くなりました。児童は、今まで愛着をもって飼育していたので、かなりショックを受けていましたが、かけがえのない命について考えるきっかけになりました。



飼育委員会の児童がお別れの会を行っているところ

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師から遺体の引き取りと埋葬の流れについて教えていただきました。
- 飼育委員会の児童が集まり、「お別れの会」を行った後は、地域の動物病院で引き取ってもらい、指定の場所に埋葬していただきました。

【児童の反応】

- なかなか出会うことのない経験をした子どもたちが、命について考えるためのきっかけになりました。
- とても悲しい出来事でしたが、子どもたちが愛着を抱いた飼育動物の死を体験することで、より動物の命を大切にしようという気持ちが芽生えました。
- 全校朝会でウサギの「死」を伝えたところ、多くの児童がお別れのメッセージを書きました。ウサギを大切に思う気持ちが表されていました。